

平成 16 年度「特色ある大学教育支援プログラム」

採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	群馬大学	整理番号	1-2-007
応募テーマ	主として教育課程の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	良医養成のための体験的・実践的専門前教育		
申請単位	学部単位		
申請担当者	石川 治		
<p>(取組の概要)</p> <p>本医学科では、倫理観に裏打ちされた技能・知識・態度を兼備した医師の養成を目指している。専門前教育の段階から、医学生としての社会的責務を感得させると共に、継続的な学習意欲を涵養するための少人数グループ制カリキュラムを整備し、平成 14 年度から実施した。入学当初より、医学・医療概論実習として一年間、週一回、医学部附属病院において、各診療部門スタッフの指導下に患者さんとの対話・介助の実践などを通じて将来の医療従事者としての意識を高めている。同時に、医学・哲学の専門教育を受けた専任教授による討論形式の医の倫理学講義・実習を通じて、医師としての倫理観を確立する。2 年次にはチーム医療実習として 1 ヶ月間、学外の老人介護施設で集中的に体験実習を行い、社会性とコミュニケーション能力を獲得する。2 年後期の医学論文作成チュートリアルでは、論文作成作業を通じて文書作成能力や情報検索能力を修得する。並行して行う生命医学講義（細胞生物学）は全てユニット別の集中講義形式とし、講義直後に試験を実施して、不断の講義出席と継続的かつ能動的学習を促している。これらのカリキュラムにより、学生の医療に対する意識改革と講義の出席率や試験成績の大幅な上昇を得る事が出来た。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、群馬大学医学部医学科の教育目標である「高い倫理観、医学知識と臨床能力、問題解決能力と自己学習習慣を身につけた良医の養成」のために、専門教育（3 年次から）に入る前に入念な体験的・実践的教育を平成 14 年 4 月に開始し、成果を上げています。</p> <p>この取組は、1 年生の入学当初から週に半日の授業時間をとって「病院体験学習・医の倫理に関する講義と討論」にあて、2 年生には「介護などの 4 週間集中体験実習、さらに週 3 日の午後いっぱいの研究体験と論文作成チュートリアル」を行っています。現在、医学教育はとくに専門教育を中心にカリキュラム、教育方法等が基準化され、全国的に同様の改革が大きく進んでいる中で、それ以前の教育を重視し、多くの授業時間をとって、互いに連続性のあるしっかりしたカリキュラム設計、きめ細かな指導をしていることに特色があり、これを支える教員の研修（FD）、体制もしっかりしていて、他大学の参考になる優れた事例です。さらに専門教育と連続しての効果을期待し、成果の検証も待たれます。</p>			

平成 16 年度「特色ある大学教育支援プログラム」

採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	大阪大学	整理番号	1-2-045
応募テーマ	主として教育課程の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	進化する理学教育プログラム		
申請単位	学部単位		
申請担当者	下田 正		
<p>(取組の概要)</p> <p>学生の質的低下と専門分野間のボーダーレス化に対応するために、理学部では平成 11 年度より理学教育の検討を行い、理学部の全学生は数学、物理、化学、生物のすべての基礎素養を持たなければならない(理学ミニマムカリキュラム)との考えに至った。4 年の検討を経て実施された新しい理学教育カリキュラムは、①全学科の 1 年生に数学、物理、化学、生物の講義と実験を必修科目として強制する「定食方式」の科目(専門に関する教養を養う)、②“研究室で遊ぼう”木曜企画(学科単位の少人数ゼミ:専門への意欲を高める)、③250 科目からなる自由に選択が出来る「カフェテリア方式」の科目(好奇心に沿って自由に教養を広げる)という 3 種類の教養科目の基盤の上に、緩やかに分化する専門教育科目(全面的に改訂)や社会との関連の科目を置き、広い視野に立ち柔軟な発想の出来る人材の育成を目指している。また、4 年間の教育改革の努力の過程から、カリキュラムを常時検討する教員組織が育ち改善に努力している。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組では、大阪大学理学部における学士課程教育において、教養教育と専門教育を連続的につなげ、4 年間一貫した教育をするための種々の工夫がなされています。特に目新しさは感じられないものの、着実な努力に基づく成果が積み上げられており、その努力と実績は高く評価できます。</p> <p>教養教育の改革は、10 年ほど前から全国の大学で推進されましたが、その後、専門教育との接続性を考えて学士課程教育全体の改革につなげようとする試みが行われてきました。これらの試みの中で成功例と呼べるものは必ずしも多くは見られませんが、大阪大学の取組は、一学部内に止まるにせよ、数少ない成功例として貴重なものだと考えられます。</p> <p>幅広い教養と専門知識を与えることが望まれる現代における理学教育の問題点を的確に拾い上げ、学部一体となって社会の要請に応える取組を推進しているところは高く評価できます。各学科がバラバラの教育を行いがちな現状にあつて、大阪大学理学部は、一体感のある模範的なプログラムを提供していると考えられます。特に、ミニマムカリキュラムの概念を生み出し、学部全体としてバランスの取れた教育体制を整備した点は優れていると考えられます。</p> <p>全国の大学の模範となり得る取組であると考えられます。</p>			

平成 16 年度「特色ある大学教育支援プログラム」  
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	山口大学	整理番号	1-2-024
応募テーマ	主として教育課程の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	TOEIC を活用した英語カリキュラム		
申請単位	大学全体		
申請担当者	岩部 浩三		
<p>(取組の概要)</p> <p>山口大学では、平成 14 年度より「TOEIC を活用した新カリキュラム」を実施している。このカリキュラムは全学部の入学者を対象とし、習熟度別のクラス編成を完全な形で実現しているが、その際、習熟度別クラス間の成績評価の問題も解決している。すなわち、TOEIC はペースメント機能を持つとともに、各クラス間を横断する統一的な尺度としても利用できるからである。</p> <p>本取組の特徴として、とりわけ以下の 3 点が挙げられる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. レベルに応じ、短期的に達成可能な数値目標を持つことで、学習意欲を高めている。</li> <li>2. 最初の TOEIC 受験までの 2 ヶ月間に、自学自習のやり方を学び、学習習慣を身につけている。その結果、1 年生の平均スコアが 70-80 点向上している。</li> <li>3. 特に、キャッチアップレベルの授業を統一シラバスとすることで、統一教材開発や F D 活動を促し、教員の授業技術の共有と改善がスムーズになされている。</li> </ol>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、教養教育を専門教育と社会貢献とともに教育理念の一つの柱としている山口大学において、社会的ニーズに対応できる実践的なコミュニケーション能力の育成のために、「共通教育センター」が全学的に平成 14 年度より実施しているものであります。</p> <p>この取組は、「TOEIC の準備」クォーター制度、TOEIC 得点に応じた習熟度別クラス編成、4 種類の統一テキストの作成、e-learning の環境作り、年間 10 回に及ぶ F D 活動による個々の教員の努力など支援体制も整備され、一定の成果を上げているなど、他の大学の参考になり得る優れた事例であると言えます。</p>			

平成 16 年度「特色ある大学教育支援プログラム」

採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	福岡教育大学	整理番号	1-2-048
応募テーマ	主として教育課程の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	障害児支援経験を通じた教員養成プログラム －豊かな人間性と高い指導力を目指して－		
申請単位	学部単位		
申請担当者	井上 裕之		
<p>(取組の概要)</p> <p>本プログラムは、教員の質に対する社会的要請に応じて、一人一人の心を尊重できる豊かな人間性と個別のニーズに応じられる高い指導力を兼ね備えた教員を養成することを目的としている。その特色は、障害児支援経験を通じた教員養成にある。</p> <p>プログラムの柱はカリキュラムとボランティア支援システムであり、平成11年から各種委員会等の全学協働体制の下で構築してきた。カリキュラム面では、障害児教育関連科目や介護等体験事前授業で学んだ理論を、障害児指導実習科目で体験と融合して計画・実践・評価(Plan-Do-See)のプロセスを学ぶ。ボランティア支援システムは、さらなる体験の深まりとなる障害児支援経験の機会を提供する。</p> <p>例えば学生が障害児支援キャンプ等を自主的にPlan-Do-Seeしている。</p> <p>本プログラムの卒業生は、教育委員会、学校や障害児関係団体等から豊かな人間性と高い指導力を備えた教員として高く評価されている。</p> <p>今後、さらに学生の成果を共有する場や取組みを評価する仕組み等の構築を予定している。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、福岡教育大学の教育目標である「広く知識技能を開発し、豊かな教養を与え、もって有為な教育者を養成」するために、平成11年度から全学的に実施されており、学生はもとより、地域の学校から高い評価を受けています。</p> <p>初等中等学校の生徒が多様化し、そこでの教師に求められる資質も複雑化している現在において、すべての教員志望学生に対して障害児の支援体験を通して豊かな人間性と指導力を養成するという本取組の内容は、教員養成教育に対する今日的な要請に応えた優れたものであると認められます。特に、障害への理解を深める目的から、教職専門科目のなかに多くの新設科目を設置し対応している点、地域の公立盲聾・養護学校等での実習を1年次から4年次まで取り入れている点、さらに大学としてボランティア支援の体制を組織化し地域の要請に答えている点など、取組のもつ広がりや組織性はきわめて高く評価されるべきであり、他の大学、短期大学の参考になり得る優れた事例であるといえます。</p>			

また、この取組には、全学的な取組とするには参加学生数が少数である点、取組の有効性を示す客観的データが充分でない点などの課題が認められますが、これらを克服すれば更なる発展が期待されます。

平成 16 年度「特色ある大学教育支援プログラム」  
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	熊本大学	整理番号	1-2-113
応募テーマ	主として教育課程の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	学習と社会に扉を開く全学共通情報基礎教育		
申請単位	大学全体		
申請担当者	宇佐川 毅		
<p>(取組の概要)</p> <p>大学における教育研究活動のためのみならず、大学卒業後のネットワーク社会において自由闊達に活躍するためには、情報基礎分野における基礎的な知識と技能が不可欠であり、これらは現代社会における“基本ライセンス”とも言える。このライセンスを取得するためには、基本的な利用技術に加え、ネットワークを利用する上で不可欠な法的規制に関する知識、ウィルスなどセキュリティに関連する各種事態への対応方法を総合的に学習する必要がある。本取組では、全学的な支援のもと、全学必修科目として情報リテラシー教育に取り組んでいる。さらに教育内容に関して高等教育機関として十分に高い教育水準を設定した上で、この水準に受講者が到達できるよう教育するための組織的教育実践を行っている。特に、一般的の教科とは異なり、大学の設定した水準に、単位習得者全てを到達させるための工夫は非常に特徴的であり、本取組の目標である「基本ライセンスの取得」という位置付けとの対応からも重要である。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は熊本大学総合情報基盤センターにより、既に7年間にわたって組織的に展開されており、着実な成果を上げています。情報分野における基礎的な知識と技能は、現代社会における「基本ライセンス」であるとの認識に立ち、1年次の全学生 1,800 名に対して十分な実習環境を提供するとともに、周到に計画された情報リテラシー教育を実践しています。センターが開発したオンライン学習システムを利用して、学生たちは学習達成度を自己確認し、かつ満足いくレベルまで高めています。専門教科集団は、講義テキストと電子教材の作成と更新、教育内容の検討、評価基準の統一などに取組んでおり、全体として整合性が取れています。情報教育に限定されない普遍的な教育内容として、他の大学、短大の参考になり得る優れた取組であるといえます。</p> <p>今後、倫理的判断力やセキュリティ意識といった人間形成面に係わる教育内容への充実を図り、また中等教育との連携を強めることにより、更なる発展が期待できます。</p>			

平成 16 年度「特色ある大学教育支援プログラム」  
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	北星学園大学	整理番号	1-2-051
応募テーマ	主として教育課程の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	実習における事前・事後指導の組織的な実施		
申請単位	学部単位		
申請担当者	池田 雅子		
<p>(取組の概要)</p> <p>福祉実習教育は、学部単位での取り組みが難しいうえ、施設からの理解も充分ではないため、各大学で大きな課題となっている。本学では学科創設時から実習を重視しているが、その基盤の上に1996年社会福祉学部への改組を機に、教育内容の充実と組織的な取り組みを行ってきた。学内では、カリキュラム上「学部共通科目」に位置付け、関連科目との連携を明確化し、国の基準を超えた事前・事後指導と1週間の「入門実習」を設置した。さらに教員・助手・事務、学部全体からの協力教員など、教育上の支援体制の充実を図ってきた。さらに学外からは、現場職員に臨時講師（フィールドインストラクター）を委嘱し、事前・事後指導やマニュアル執筆等への協力を得ている。これらの工夫・改善によって、学生の授業への満足度や福祉実践への意欲の向上が見られる。また学内での事前・事後指導の充実を通して得た様々な課題をもとに、北海道内さらには全国の大学や施設に発信し、共同で実習教育の基準作りに取り組んでいる。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、北星学園大学社会福祉学部の教育目標である「人間性を培うとともに、社会性・国際性を豊かにする広い教養を身につけ、さらにそれぞれの専門領域において深く専門の知識・技術を習得し、知的・道徳的及び応用能力を発揮できる人材育成」を達成するため、既に8年以上にわたって組織的に実施され、現場実習の事前・事後指導の充実や2004年度の社会福祉士の合格者数118名に実証されるように大きな成果を上げています。</p> <p>現在、大学には、社会・経済構造、産業構造の急激な変化に対応できる特色ある教育が求められており、継続的な実習教育の組織の充実や、この取組に対する外部評価の実施や改善という点は、こうした社会の多様な要請に十分応えた優れた取組であると認められます。特に、前者の事前の事例研究や地域研究の充実、現場のフィールドインストラクターの起用の努力などについては先進性も認められ、今後現場実習の効率化が求められつつあることを鑑みれば、この取組は他の大学、短期大学の参考になり得る優れた事例であると言えます。</p> <p>また、この取組には、カリキュラム全体の効率化と長期の実習との時間的バランス問題や理論的概念と現場実習との有機的連関性の明確化という課題も残されていますが、これを克服すれば更なる発展が期待されます。</p>			

## 平成 16 年度「特色ある大学教育支援プログラム」

## 採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	慶應義塾大学	整理番号	1-2-048
応募テーマ	主として教育課程の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	自立と創発の未来先導理工学教育		
申請単位	学部単位		
申請担当者	稲崎 一郎		
<p>(取組の概要)</p> <p>次世代を担う研究者、技術者が具備すべき最も重要な能力は、自らの判断で自らの道を適切に決定できる能力であり、これは従来の縦割り型の押し付け教育課程では実現できない。本取組は、個の自立を促す「創発のためのネットワーク環境」、すなわち、多様な個性と資質を持った学生が共存する機会を意識的に提供し、その中での各種の相互作用を通して、新しい能力の芽、価値観、視野などが次々と生まれる創発的教育プログラムを実践することにある。</p> <p>具体的には、多様な学生を受け入れる入試制度、自立的に学科を選択する学門制、創発効果を高めるための理工学基礎教育、個性と資質に適合させた外国語学教育、成長レベルに応じた総合教育、大学院における専攻・専修制などの教育プログラム、および放任教育に陥らないための綿密なケアプログラムから構成されている。今後、理工学の素養を基礎にして広く異分野でも活躍できる人材の育成を可能とすべく、総合大学の特徴を生かし、本プログラムを発展させる。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>慶應義塾大学の教育に関するグランドデザインに基づいて、学士課程教育における優れた教育プログラムが設定されており、高く評価できます。教育プログラムは、学生が自らの判断で選択できる「学門制」と呼ばれる体制から成っており、独自性のあるものと考えられます。また、教育プログラムに適應できない一部の学生に対しては、それを補う教育支援体制(ケアプログラム)も整備されていて、学生に対するきめ細かな配慮が感じられます。学際性、国際性、豊かな教養を標榜する未来先導的研究者や技術者の育成を目指す取組として、着実な実績も積み上げられています。</p> <p>この取組は、特に際立った特色があるという性格のものではなく、長年、独自の教育プログラムによって学士課程教育に着実な実績を積み重ねてきたことに意義があります。</p>			

平成 16 年度「特色ある大学教育支援プログラム」  
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	中央大学	整理番号	1-2-008
応募テーマ	主として教育課程の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	実学理念に基づく高大接続教育の展開		
申請単位	学部単位		
申請担当者	酒井 正三郎		
<p>(取組の概要)</p> <p>本取組は、中央大学における実学の伝統を支えてきた商学部が、「深い教養と情報スキルを身につけ、国際的に活躍できる人材の育成」という新しい実学理念のもとで展開してきた高大接続教育を含む教育課程改革を提案する。本取組は、高大接続教育・入学準備教育・学部教育の 3 つを柱とする。このうち高校生に大学教育を提供する「高大接続教育」には、体験授業を提供する「高大連携」、会計学ゼミ等を提供する「高大接続」、付属校対象に出張講義を行う「高大一貫」の 3 つがある。入学手続者を対象とする「入学準備教育」では、英語・文章作成・数学の基礎力養成のための添削教育や情報リテラシー教育が提供される。「学部教育」では、高大接続教育や入学準備教育との連続性を確保するとともに、商学部の実学理念を身につけた人材を育成すべく、高度なキャリアやスキルを目指す学生に、プログラム科目群やメニュー科目群が提供される。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、中央大学商学部が、「深い教養と情報スキルを身につけ、国際的に活躍できる人材の育成」という新しい実学理念の達成のために、学習意欲が欠けるなどの近年の学生の問題状況に対して 1999 年より実施してきた、高大接続教育を中心とした教育課程の工夫・改善です。</p> <p>高校へのヒアリング調査を広く実施して、高校段階ですでに問題が大きいと認識した同学部では、まず、入学試験合格後の文章力や英語力の育成を目的とした入学準備教育を導入しました。あわせて、同様の問題意識を持つ高校や文部科学省、地方自治体とそれぞれに連携して、多様な接続教育・連携教育・高大一貫教育を開始しました。特に商業高校との高大接続教育は、同学部が優れた実績を誇る会計学教育を柱とする特色性のあるものとなっています。</p> <p>こうした高大接続の工夫・改善は、他の大学、短期大学の参考になり得る優れた事例であるといえます。</p>			

平成 16 年度「特色ある大学教育支援プログラム」

採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	津田塾大学	整理番号	1-2-062
応募テーマ	主として教育課程の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	発展し続ける英語教育プログラム － ボーダレス時代の多様なニーズに応じて －		
申請単位	大学全体		
申請担当者	田近 裕子		
<p>(取組の概要)</p> <p>ボーダレス化が急速に進む国際社会では、高い専門性を備え、英語に堪能であることが、優れた人材の主要な要件となる。本取組は、全学的（英文学科、国際関係学科、情報数理科学科）に、内容重視の英語授業を、4 技能(listening, speaking, reading, writing)のバランスを重視して行う英語教育プログラムである。英語運用スキルと高度な専門性の融合を図り、学習意欲を高め、学生のニーズに応える、内容豊かな教材を開発してきた。それにより、国際的視野を持ち、IT化の進む時代に即応した発信力を身につけた人材を育成することができる。</p> <p>この取組の主な特色は次の 4 点である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 視聴覚リソースを用いた多彩な内容の授業</li> <li>2. 3, 4 年次の多様なニーズに応える英語演習の授業</li> <li>3. 体系的に書く訓練により発信力を培う授業</li> <li>4. 英語を通して高度な専門性を培う授業</li> </ol> <p>本取組は、学生のさまざまなレベルや必要性に応じることのできる汎用性を有しており、広く多様な学習者に適用しうるものである。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、津田塾大学の教育目標である「学生の自主性の尊重、少人数教育、専門性と幅広い教養の融合、国際性」を達成するために、既に 10 年以上にわたって組織的・継続的に実施され、留学経験者、英語による卒論、大学院への進学などに実証されるように大きな成果を上げています。</p> <p>現在、大学には、社会・経済・産業構造の急激な変化に対応できる特色ある教育が求められています。この取組には、顕著な新規性や特色は見られないものの、1 年次から 4 年次まで内容重視の真摯な授業展開とそれを可能にする内容豊かな教材開発に重点をおき、まさしく英語の津田塾大学としての面目躍如と認められます。また、この取組には、有効性の評価が不十分であるという課題も認められますが、これを克服すれば、一層他の大学の参考にもなり得、更なる発展が期待されます。以上の点を鑑み、この取組は非常に優れた事例であると言えます。</p>			

平成 16 年度「特色ある大学教育支援プログラム」

採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	東海大学	整理番号	1-2-063
応募テーマ	主として教育課程の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	地域医療と医学教育の連携 － “良医” の育成		
申請単位	学部単位		
申請担当者	堀田 知光		
<p>(取組の概要)</p> <p>東海大学では「明日をになう強い使命感と豊かな人間性を持つ人材の育成」を教育理念の一つとしている。その意味で、医学部においては「専門的名医であるまえに、あらゆる病気や症状に人間的に対応できる“良医”を育成する」ことを教育目標とし、まず全国に先駆けて教育計画部（室）を設置し、このテーマに組織的に取組んで来た。その内容は、高度の専門性に特徴のある大学付属病院に加え、まだ診断のついていない段階での患者に接する機会の多い学外病院・地域医師会診療所での臨床実習（高学年、平成 5 年開始）、あるいは病院外医療としての福祉施設での実習（低学年、平成 10 年開始）等を積極的に取り入れた一連の教育カリキュラムである。医学教育で重要視されるクリニカル・クラークシップ、PBL（問題解決型学習）、チューター制の要素をすべて満たし、かつ教育計画部が FD 活動も含めて、教育全般を統括的に指導する体制が出来ている点が特徴である。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、東海大学医学部の教育目標を達成するために、1989年に全国に先駆けて教育計画室を設置して、既に10年以上にわたって継続的に実施されている一貫性のある組織的取組です。この取組によるカリキュラムの内容は、①1年生を対象とした話し方のプロによる講義、②2年生を対象とした学外福祉施設での1週間の研修、③5・6年生を対象とした学外での診療参加型実習、④6年生を対象とした海外実習を含む選択科目、などです。これらについては、一部の他大学でも類似の取組がありますが、教育計画室の主導のもとに、それぞれに対して委員会を設置し検討すると同時に、教員対象の組織的・大規模な海外派遣を含むFD (Faculty Development) の強力な支援で、着実に実施している点は他大学の参考になり得る優れた事例です。</p> <p>この取組の有効性についての自己評価がやや不十分という課題も認められますが、これを克服すれば更なる発展が期待されます。</p>			

平成 16 年度「特色ある大学教育支援プログラム」  
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	目白大学	整理番号	1-2-078
応募テーマ	主として教育課程の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	教養教育における基礎学力養成計画『連携』		
申請単位	学部単位		
申請担当者	早川 雅子		
<p>(取組の概要)</p> <p>取組の趣旨は、高等教育の大衆化が進み学力の低下が顕在化する中で、小規模大学がその特性を活かして、基礎的学力養成と学習意欲喚起とを柱とした教養教育の充実をはかることである。取組の重点目標として、以下の三点を設定した。第一は日本語スキル（読む・書く・聞く・話す）達成、第二は基礎学力を実践的に応用する場の設置、第三はカウンセリング的内容を取り入れた個別指導の強化である。取組の特色も三点で、(1)統計分析による客観的な成績調査の導入、(2)徹底して地道な教育指導、(3)目標達成のための、授業科目・教員・大学職員・学生・外部機関等との有機的連携である。取組は、平成 13 年 4 月から開始し、重点目標それぞれに実績をあげている。日本語スキルでは、入門的専門書講読・小論文作成等で、設定した数値目標を達成した。実践的応用では、現場研修を取り入れた授業で、社会性や職業意識を涵養することができた。個別指導では、導入教育用教科書『大学入門』を発行、人文学部データベースシステムを設置した。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、教養教育における、日本語スキル等を中心にした基礎学力の養成を目標に、平成13年度から開始された比較的新しい教育プログラムですが、学生の学力到達段階データベースを活用した懇切な指導・支援により、学生の基礎学力向上に成果を挙げている優れた取組です。</p> <p>近年の学生の基礎学力向上は他の大学でも大きな課題となっていますが、この取組は日本語スキル等の向上に焦点をあてて、成績のデータベース化と評価、少人数教育、時間割の工夫、評価ペーパー開発、「大学入門」テキストの発行等体系的な教育プログラムであり、他の大学にも参考になる取組になっています。今後、この取組の全学部への波及、さらにデータベースの個人情報保護の工夫、専門課程との接続の工夫、学生の参加などにより、一層の成果が期待できます。</p>			

平成 16 年度「特色ある大学教育支援プログラム」

採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	名城大学	整理番号	1-2-112
応募テーマ	主として教育課程の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	医学教育との連携による臨床薬剤師教育		
申請単位	大学院研究科単位		
申請担当者	松葉 和久		
<p>(取組の概要)</p> <p>名城大学は、1975 年以来、1 年コースの薬学専攻科を開設し、専門的な知識・技能を有する臨床薬剤師教育の理念を掲げて他大学に先駆けて実施してきた。この実学専門教育をさらに充実させるために、2003 年、薬学専攻科を修士課程「臨床薬学専攻臨床技能コース」へと改組し、近郊の藤田保健衛生大学医学部と協定を締結し、「医・薬連携大学院」を開設した。これからの社会に求められる臨床薬剤師の育成には、薬学部教員に加え、診療にかかわる医学部教員、病院薬剤師、及び看護師の医療チームの協力が不可欠である。名城大学では、この連携によって、医療施設を持たない私立薬科大学・薬学部では初めて、医療施設を研修の場とする高度な臨床薬剤師教育が可能となった。藤田保健衛生大学医学部に設置された「名城大学サテライトセミナー室」では、薬学部教員が医療現場教育へ積極的に参加する機会を与えられ、また院生による症例検討や種々のセミナーの開催を通して、医・薬の交流が深められている。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、名城大学薬学部が 28 年前に学部教育のあとに臨床薬剤師養成を目的とする 1 年の薬学専攻科をつくり、この経験をもとに、昨年からは近隣の医学部附属病院をもつ大学と医・薬連合大学院を開設して、2 年間の大学院修士課程・臨床薬学専攻臨床技能コースを開始したもので、日本の薬学教育を行う大学が附属の大病院をもたないものが多いなかで、臨床薬学の実践的臨床能力を具体的に身につける教育モデルを提供するものです。とくに、PBL・臨床コミュニケーション技能教育・OSCE 等、今日医学教育で取り入れられている教育方法を取り入れていること、医師・看護師による症例検討会への参加、病院にサテライトセミナー室をもって教員による指導、さらに米国サンフォード大学教員による研修なども行っていることにも特色があります。日本の薬学教育が、臨床技能教育のために 6 年制へ移行としようとする今日、本取組は他大学にも参考になります。現在、受け入れ学生数が少ないが、6 年制をみこした体制への具体化も望まれます。</p>			

平成 16 年度「特色ある大学教育支援プログラム」  
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	高知工科大学	整理番号	1-2-117
応募テーマ	主として教育課程の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	学生の多様化に対応した実践的技術者の育成 ～生徒から学生、そして社会人への成長をサポート～		
申請単位	学部単位		
申請担当者	坂本 明雄		
<p>(取組の概要)</p> <p>本取組は、多様な学力・能力・学習意欲をもつ新入生を受け入れ、受動的な「生徒」から主体性をもつ「学生」への成長を支援し、長所を生かした教育により「実践的技術者」に育て上げる教育課程を構築し、実施と改善のサイクルを繰り返しながら進化させていくものである。特に「生徒」から「学生」への成長をサポートする科目として、少人数で実施する新入生導入教育『スタディスキルズ』と、徹底した習熟度別クラス編成を可能にした『数学』教育のカリキュラムはこの取組を象徴する具体例である。この二つは平成 15 年度からの取組であるが、いずれも平成 9 年の開学以来続けてきた多様な学生に対応できる教育システムの導入教育および数学教育の実施状況を踏まえて進化してきた結果であり、実施・点検・改善のサイクルがうまく機能していることを示している。このような教育システムの結果として、卒業生の就職率も高水準を保っており、今後も前述の改善された教育課程にサポートされた学生たちの卒業後の活躍が期待できる。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、高知工科大学の教育目標である「学生の多様化に対応した実践的技術者の育成～生徒から学生、そして社会人への成長をサポート～」を達成するために、既に 7 年以上にわたって組織的に実施され、スタディスキルズ受講による学生の主体性の向上、退学率の減少、学生の外部発表数の増加などに実証されるように大きな成果を挙げています。</p> <p>この取組の「社会経験豊かな教育講師によるスタディスキルズ教育」は、社会の多様な要請に充分応える優れた先進性のある取組であると認められます。スタディスキルズ教育は、今後、学生の質の多様化が予想されること、直ちに戦力となる学生教育が望まれていること、基礎と応用の両面にわたる教育が不可欠となることなどから、多くの大学の参考になり得る優れた事例と言えます。</p> <p>また、この取り組みは、学生の動機付け教育としてのスタディスキルズからの脱皮という課題がありますが、これを克服すれば更なる発展が期待されます。</p>			

平成 16 年度「特色ある大学教育支援プログラム」  
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	北海道浅井学園大学短期大学部	整理番号	2-2-024
応募テーマ	主として教育課程の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	人間総合学科における新教育課程の実践 －履修相談室と履修記録ノートによる総合支援－		
申請単位	学科単位		
申請担当者	谷川 幸雄		
<p>(取組の概要)</p> <p>人間総合学科は、「専門教育」「教養教育」「編入教育」の3つを柱とする総合教育を目指すものである。すなわち、専門的・職業的技術や知識を学ぶ専門教育、豊かな人間性・創造性を醸成する教養教育、生涯にわたる高等教育のファーストステージ／リカレント教育としての役割を担う編入教育である。</p> <p>この教育を具現化していくために15の支援プログラムを設定した。この実践項目のうち「履修相談室」と「履修記録ノートの活用」は他の13の支援プログラムを相互補完し合う重要な役割を果たしている。</p> <p>全教職員が「参画」「共創」しそれぞれの役割に向かって「挑戦」できる組織体制を樹立し、実践に取り組んでいる。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>「履修相談室」と「履修記録ノート」を学生の教育支援を核として活用し、教育効果を上げており、高く評価できます。</p> <p>「履修相談室」には複数のスタッフが常駐して、組織的な相談体制が採られており、「履修記録ノート」は学生と教職員を結ぶ有効な触媒として機能しています。</p> <p>この取組は、学生の科目選択や進路選択などの総合学科に特有な問題を解決することが動機になっているとはいえ、一人一人の学生の志向に合った教育指導が重要になっている今日、他の大学や短期大学の参考になる優れた事例であると言えます。</p>			

平成 16 年度「特色ある大学教育支援プログラム」

採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	山形短期大学	整理番号	2-2-019
応募テーマ	主として教育課程の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	実習を核とした総合的カリキュラムの構築		
申請単位	学科単位		
申請担当者	水野 則子		
<p>(取組の概要)</p> <p>本取組は学生の学習意欲、保育者としての高度な専門性や実践力を向上させるため、幼児教育科全体で試みた教育改革・意識改革を伴ったカリキュラム構築とその実践である。</p> <p>学生にとって、学習内容を関連させて総合的な視点から保育をすることは困難であった。そこで各科目の内容を相互に関連させると同時に、保育の総合化を具体的に示した授業を展開するカリキュラムを構築する必要性があった。平成 9 年度より実習内容研究、平成 10 年度より基礎演習、平成 15 年度より総合演習のプロジェクトを立ち上げ、実習を核とした総合的なカリキュラムの構築をめざした。プロジェクトの成否は担当教員の意識改革と協力体制によるという認識から、すべてのプロジェクトはチーム・ティーチング方式で授業を運営することにした。</p> <p>その結果、授業や実習に対する学生の意欲や理解度が向上し、授業内容を保育現場で応用する能力が飛躍的に高まるとともに、教員間の連携や相互学習、学科全体としての教育力が大きく向上した。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、山形短期大学幼児教育科の教育目標である「敬・愛・信の理念にもとづき人間性豊かで、しかも真に地域社会に貢献できる実践的な人間の育成」を達成するために、平成 9 年より 7 年間にわたって総合保育の重要性を強調して組織的に実施され、総合保育の実習を核としたカリキュラム編成や、教員のチーム・ティーチングの採用に実証されるように、大きな成果を上げてきています。</p> <p>現在、大学には、社会・経済構造、産業構造の急激な変化に対応できる特色ある教育が求められており、この取組の 2 年間の教育内容を実習の核とした総合的カリキュラムを 5 つの群に分けて、効率かつ体系的に学習できるように配置し教育効果を挙げようという点は、こうした社会の多様な要請に充分応える優れた取組であると認められます。特に、現在 1 2 科目を運営するまでになったチーム・ティーチング方式については、先進性も見られ、授業の方法もシステムの、学生の満足度も高く、今後、教員の意識と教育力の向上が求められつつあることを鑑みれば、この取組は、他の短期大学の参考になり得る優れた</p>			

事例であると言えます。

また、この取組には、取組の有効性の評価手法や学生の更なる能力向上をどのように推し進めるかなど、いくつかの課題も認められますが、これを克服すれば更なる発展が期待されます。

平成 16 年度「特色ある大学教育支援プログラム」

採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	金城大学短期大学部	整理番号	2-2-017
応募テーマ	主として教育課程の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	キャンパス内におけるキャリア教育－意識変容への挑戦－		
申請単位	学科単位		
申請担当者	岡野 絹枝		
<p>(取組の概要)</p> <p>本学ビジネス実務学科の学生に対し、目的意識や職業意識の明確化、基本的マナーの向上などを図ることを目的として、キャンパス内における継続的なキャリア教育を実施することとなった。キャリア教育の目標を「専門技能の習得」と「態度変容」に絞り、これを「キャリア形成支援プログラム」として、①資格取得支援、②社会的スキル習得支援、③キャリア・カウンセリングの3分野に分け、専任教員および非常勤講師連携体制の下、平成 14 年度から平成 16 年度までの3か年プログラムを構築し、実践した。2年後の平成 15 年度末での成果は、①資格取得数の倍増、文部科学大臣奨励賞受賞、自宅学習の増加、②挨拶行動や対人態度の変容、③就職内定率の上昇、1年次における退学者数の大幅減少など顕著な改善が見られた。</p> <p>態度が変われば意識変容が生じるものと信じて、今年度もプログラムを推進し、更に社会人も対象としたプログラムに発展させ、地域貢献へとつなげていく計画である。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、学生の「キャリア教育」支援を組織的に推進していくために、①資格取得支援②社会的スキル習得支援③キャリア・カウンセリングという3点の視座からなる「キャンパス内におけるキャリア形成支援プログラム」を設定し、着実な成果を上げている取組として評価できるものです。</p> <p>単なる職業対策ではない「キャリア教育」の必要性は、現在、社会的要求として高等教育機関に強く求められています。2年間という限られた教育課程の中で適切な職業観を身につけさせ、学生各自に主体的な進路を選択させるという望ましい形での「キャリア教育」の実現は、いずこの短期大学においても苦勞の多いところですが、この取組は、他でも共有できる面が多々あり、参考になり得る優れた事例であると判断しました。</p> <p>この取組には、評価を具体的数値として表したうえで、自己点検を進めていく必要があり、そうした面での課題も残されていますが、これを克服すれば更なる発展が期待されます。</p>			

平成 16 年度「特色ある大学教育支援プログラム」

採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	※2	整理番号	3-2-002
応募テーマ	主として教育課程の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	大学連携による新しい教養教育の創造 ～京都地域における単位互換制度～		
申請単位	共同		
申請担当者	佐々木嬉代三（立命館大学）		
<p>(取組の概要)</p> <p>申請した取組は、京都地域における単位互換制度である。京都地域には多様な特色をもつ 51 の大学・短期大学が集積しており、全国で唯一の法人格をもつ「財団法人大学コンソーシアム京都」を設置し、さまざまな大学間連携、産官学地域連携の取り組みを進めている</p> <p>単位互換制度は、大学連携により各大学・短期大学の特色ある科目を他大学・短期大学の学生が受講できるよう整備し、自大学では学べない科目を総合的かつ体系的に履修することを進めるものである。本制度は既に 10 年の実績をもち、平成 15 年度は京都地域の国公私立 47 大学が参加し、16 分野 401 科目が提供され、9774 名の学生が利用している。その大きな特色として、「コーディネート科目」の提供があげられ、どの大学でも開講されていない科目を大学間連携や産官学地域連携により新たに提供する科目で「京都学」、「21 世紀学」、「複合領域」の 3 分野にわたり 41 科目を提供している。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、京都地域の大学・短期大学連携による「新しい教養教育の創造」を目指すものであり、単位互換制度は既に 10 年以上にわたって実施されています。各大学の独自の提供科目だけでなく、京都地区の特色のあるコーディネート科目も多数提供されています。平成 15 年度 47 大学・短期大学が参加と、参加大学も年々増え、毎年の学生の利用者も多く、大きな成果を上げています。</p> <p>開講時間帯や交通の便に対する手立ても配慮されており、この単位互換制度の取組は、地区の大学連携の先駆的試みとして一つのモデルになりうる実践と評価できます。</p> <p>さらに、この大学間連携が、「教養教育の創造」だけでなく、「専門教育」「大学院教育」の連携に発展すれば、更なる飛躍が期待できます。</p>			

※2 京都教育大学・京都工芸繊維大学・京都市立芸術大学・京都府立大学・京都府立医科大学・京都府立医科大学医療技術短期大学部・大谷大学・大谷大学短期大学部・京都外国語大学・京都外国語短期大学・京都学園大学・京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部・京都嵯峨芸術大学・京都嵯峨芸術大学短期大学部・京都産業大学・京都女子大学・

京都女子大学短期大学部・京都精華大学・京都造形芸術大学・京都橘女子大学・京都ノートルダム女子大学・京都文教大学・京都文教短期大学・京都薬科大学・種智院大学・成安造形大学・同志社大学・同志社女子大学・花園大学・佛教大学・平安女学院大学・平安女学院大学短期大学部・明治鍼灸大学・立命館大学・龍谷大学・龍谷大学短期大学部・池坊短期大学・華頂短期大学・京都経済短期大学・聖母女学院短期大学・京都西山短期大学・大阪成蹊大学芸術学部